



Biz Com

<http://www.rikkyo.ac.jp/sindaigakuin/bizsite/graduate/bizcom.html>

2016年秋号

— 必修科目「ビジネスシミュレーション」に迫る —

2016
VOL.53

CONTENTS

01 巻頭インタビュー 宮下篤志 特任教授

02 15期生ビジネスシミュレーション・チーム紹介

06 特集 JBCC2016本選

07 研究会紹介・留学生だより

08 修了生インタビュー

「CFP認定教育プログラム」修了生

阿部太一さん/山田晋也さん/王洪浩さん



立教大学ビジネスデザイン研究科 特任教授

宮下 篤志

Atsushi Miyashita

「謙虚な姿勢で
一生学び続けることを大切に
RBSでの学びはスタートライン」



今号では、1年次の必修科目「ビジネスシミュレーション」のチーム紹介を掲載するにあたって、およそ10年に渡り講義をさせている宮下教授の研究室を訪ねました。これまでの経験を踏まえての課題やエピソード、学ぶ姿勢へのアドバイスを伺いました。

—「ビジネスシミュレーション」の教育目的と内容をお聞かせください。

一貫して経営における意思決定とビジネスモデル創出に焦点を当てています。A期間は、仮想企業のビジネスゲームをチーム単位で実施(今年度は自動販売機でのうどん販売)。B期間は、数年前より現実の企業の経営課題をテーマとして扱っています。今年度は、日本人クラスと留学生クラスでテーマを分けます。日本人クラスでは、各チームが日本通運株式会社様に対して新規ビジネスプランの提案を行います。また、留学生クラスでは、新たな試みとして、広島県竹原市の皆様と地域創生のプラン創出を考えていきます。いずれも、マネジメン的な考えを基に、マクロ的からミクロ的な視点から新たなプランを期待しています。

—過去から現在まで、授業の変化をどのように感じられますか?

毎年どの学生もあらゆる年代を通して熱心に取り組んでおられるという印象に変化はありません。教員側としては、昨年度から特に意思決定を行うにあたって、チームでの授業時間外の負担を軽減する必要があると考え、授業時間内で意思決定の作業を行えるように課題内容などを変えています。しかしながら、皆さん各自で発表資料の作成など、授業時間外でも取り組まれていますね。

また、今年度はあくまでも試行的ですが、日本人と留学生のクラスを分けています。これは、言語が原因で留学生の発言機会が日本人より少なくなってしまうことを配慮してのことです。今後、講義内容の結果を見た上で、より良い方法を考えていく必要があると思っています。

—本講義を通じての成果はどのような点にありますか?

「物事を深く考えるきっかけとなった」と多くの修了生から聞いています。様々なバックグラウンドを持つ社会人が、グループ(チーム)として拘束されることは大きなプレッシャーだと思います。しかしながら、多様な年代の異業種で働く社会人が知の交流を図り、繋がりを持つことは大きな意味があります。

そして、これらを単なる人的ネットワークと捉えるのではなく、他人の意見や考えも取り入れて、ともに学んでいく姿勢が、立教らしさ溢れる講義に繋がっています。

—本講義における今後の課題は?

個人的な意見となりますが、A期間については、意思決定のストーリーを事前に明確にした上で、失敗した意思決定の事例なども採り入れられたら良いですね。B期間については、地域創生に関する戦略なども継続的な課題として扱えればと思います。理想は「現地現物」です。予算や時間的制約もあるので課題は多いですが、現地や実際の企業へ赴き知ることが最も良いのです。

—入学を希望する方や、在学生、卒業生へアドバイスをお願いします。

学ぶことは人生を豊かにすることです。この豊かさを常に持っていてください。年齢を問わず、本課程を修了した瞬間が新たなスタートラインです。これを基に、ご自身なりの深化を続けてください。くれぐれもプライドだけが「困ったMBA」にはならないことです。常に謙虚な姿勢で、一生学び続けて頂きたいです。